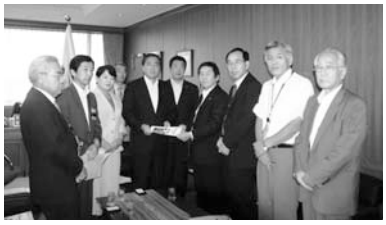
厚木基地の早期返還と基地対策の抜本的改善を要請

大和市基地対策協議会の要請に関係大臣、副大臣などが対応

市民、議会、行政の代表者から組織される大和市基地対策協議会（会長：大木哲大和市長）は、8月23日、民主党幹事長室、防衛省、総務省、外務省などを訪問し、「厚木基地の早期返還と基地対策の抜本的改善に関する要望書」を提出しました。



長島防衛大臣政務官に要望書を手渡す大和市基地対策協議会委員ほか

この要望書では、「※再編実施のための日米のロードマップ」に示されている厚木基地の空母艦載機移駐の早期実現や、過去3年は厚木基地で行われていないNLP（夜間連続離着陸訓練）を今後も決して厚木基地では実施しないことといった、厚木基地による騒音被害などの市民の負担軽減と、住宅防音工事などの周辺対策の拡充を求めています。

本協議会の要望に対し、民主党幹事長室では、同党で防衛関係を担当する本多副幹事長が「首都近郊に所在する大和市の騒音状況などは承知している。皆様の声を関係省庁などにきちんと伝えていきたい」と話し、防衛省では、長島防衛大臣政務官が「空母艦載機の移駐については、普天間基地移設の進捗（ちょく）にかかわらず、ロードマップに基づいて進めていく」などと述べました。

基地にかかる固定資産税の代替的な財源として交付される基地交付金などを所管する総務省には、交付金制度について騒音被害を考慮したものとすることなどを求めました。これに対し原口総務大臣は「大和市の置かれている状況は理解した。総務省内でも議論したい」と答えました。

外務省では、武正外務副大臣が「空母艦載機移駐はロードマップに沿って着実に推進していく。また、艦載機の部品落下については米軍へ強く申し入れている。引き続き防止に努めたい」などと述べました。

大和市基地対策協議会では、今後も基地にかかわるさまざまな問題の解決に向けて取り組んでいきます。

※再編実施のための日米のロードマップ▼在日米軍再編に関して平成18年に日米両国政府によって合意された文書。

問 市役所基地対策課基地対策担当
☎（260）5310。

市長見聞録

大和市長
大木 哲

市民の皆さん、こんにちは。

今年の夏は異常なほどの暑さでした。5万人を超えるかたが熱中症に罹（り）患し、都内23区だけで100人以上のかたが亡くなりました。これはもう、自然「災害」といっても過言ではありません。

本市における熱中症で救急搬送された人数は64人。中には重症化したかたもいます。

ちなみに、本市の今年の最高気温は36.6度で、平均体温である36度台に達した日は四日もありました（9月16日現在）。

そうした中、本市においては気温が36度を超えた場合、熱中症への注意を呼びかけるため、今夏から防災無線の活用を始めました。日ごろ、温度計を目にしないかたにとっても、気温に注意を向けるきっかけになればと、実施しました。

また、今年の夏の話題といえば、100歳以上のかたの所在が不明確であるということが、初めてクローズアップされたことではないかと思います。8月末現在、本市に居住する100歳以上のかたは49人（男性8人、女性41人）で、そのかたがた全員の所在を確認済みです。今後も、この問題は注視してまいります。

最後は、9月定例会で上程した補正予算についてです。その中に、市立小学校、すべての普通教室に、「電子黒板」を配置する事業があります。全国的にも珍しく、県内では初めてです。

「電子黒板」がもたらす効果の一つに、例えば先生が生徒に背中を向ける時間が少なくなり、その分、先生は生徒に、生徒は先生に集中できるという利点があります。

授業の理解度をより深める効果が期待されるこの「電子黒板」は、まさに、教室の『黒船』と言えます。

おそらく、数年後には全国で多くの学校が取り入れることになるでしょう。そして、小学校の6年間で、「電子黒板」を使用した学校と、そうでない学校では、その後大きな差が表れてくるのではないかと思います。

そのほか、◆子宮頸がん予防ワクチン接種費用の助成　◆一般不妊治療費の助成　◆大和駅北口と駅前広場の照明改修　◆小学校通学路等のグリーンカラー舗装　◆幼児・児童用自転車ヘルメット購入費の助成　などにかかる補正予算を上程しました（この広報が発行されるころには、議会によって成否が明らかになっています）。

今回は、この辺で…。